

令和4年度事業報告書

～ みやぎの赤十字 ～



ワールド・ファーストエイドデー 2022 (イオンモール新利府北館)



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

宮城県支部

赤十字のはじまり

1859年、スイス人 アンリー・デュナンは、第2次イタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノに程近いカスティリオーネで、戦野に放置されていた傷病兵の悲惨な有り様を目の当たりにしました。

その時、デュナンは「傷ついた兵士は、もはや兵士ではなく、人間である。人間同士として尊い命を救わなければならない。」という思いを抱き、住民の協力を得て、敵味方の区別なく救護に努めました。この体験を記した著書「ソルフェリーノの思い出」がデュナンの抱いた思いの尊さを世界に広め、1863年に赤十字国際委員会が、また1919年には平時活動を担当する国際赤十字・赤新月社連盟が創設されました。

日本赤十字社の誕生

日本赤十字社は、1877年の西南戦争の際、きの つねたみ おぎゅうゆずる佐野常民と大給 恒によって設立された救護団体「博愛社」が前身です。(1887年「日本赤十字社」に改称。)

彼らは官軍・薩摩軍双方に多数の死傷者が出ている悲惨な状況に、戦争時の傷病者救護の必要性を痛感して博愛社の設立を明治政府に願い出ます。「敵味方の区別なく救護する」ことへの理解が得られずに一度は却下されますが、佐野は熊本の官軍司令部に赴き、西南戦争の征討総督であったありすがわのみやたるひと有栖川宮熾仁親王へ直接願い出て、親王の英断によりその設立が認められました。

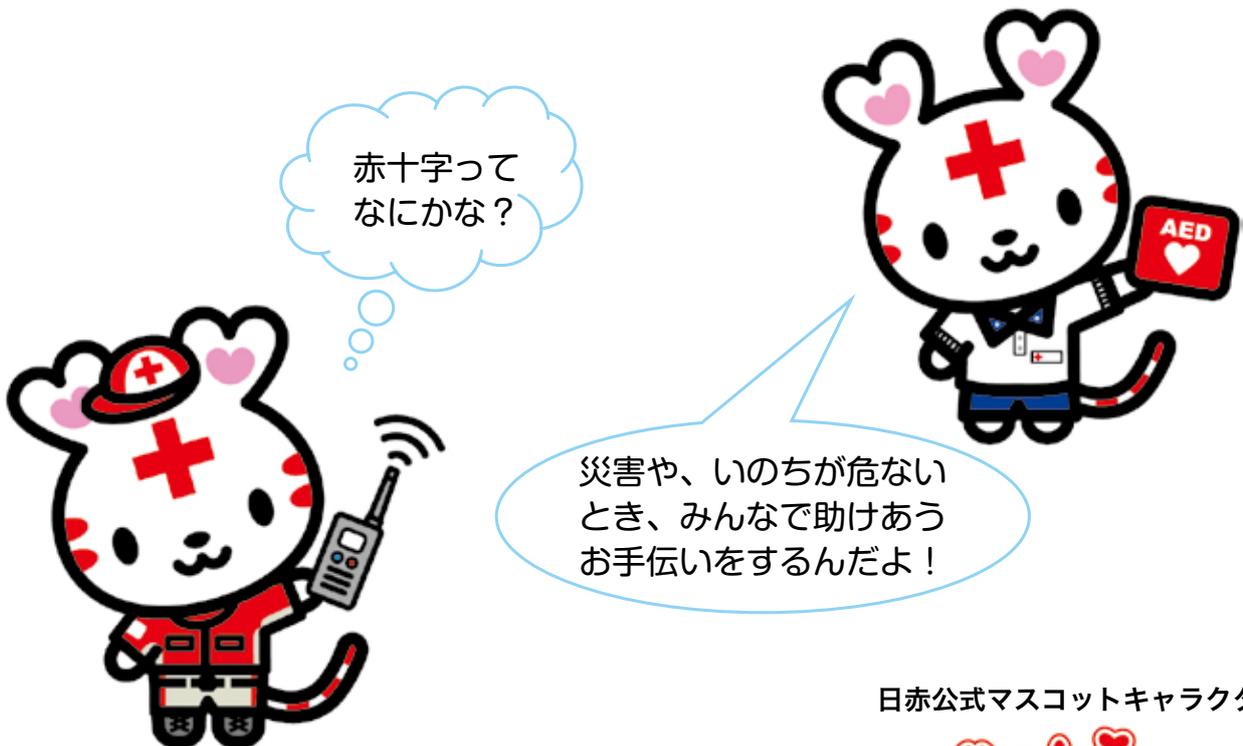
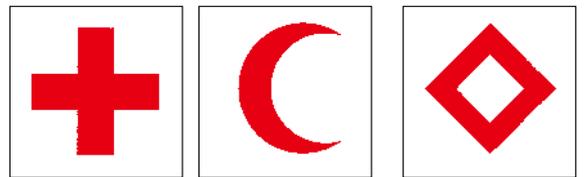
宮城県支部は、1887年に「日本赤十字社宮城県委員部」として開設され、1894年に支部へ昇格して現在に至ります。

赤十字の標章

赤十字の標章は、1863年の国際会議において、創始者アンリー・デュナンの祖国スイスに敬意を表し、スイス国旗の配色を転用して「白地に赤十字」と決められました。現在は、イスラム教国の多くが「白地に赤い三日月(赤新月)」のマークを使っていますが、これも赤十字と全く同じ組織であることを示す標章として認められています。また、2007年1月には「白地に赤いひし形(レッドクリスタル)」が追加され、これを使用する国は、レッドクリスタルの中にその国独自のマークを入れて使用することが認められました。

これらの標章は、保護の標章として、戦時において軍の衛生部隊に所属する人、建築物、施設、車両及び資材等に付し、付されたものを攻撃対象としてはならないと決められています。また、表示の標章として、赤十字社の建物、自動車、出版物等に対し、赤十字の目的達成のために使用されます。

赤十字標章の使用は、国際法「ジュネーブ条約」、さらにそれぞれの国内法(日本では「赤十字の標章及び名称等の使用の制限に関する法律」昭和22年法律第159号)により厳しく制限されています。



日赤公式マスコットキャラクター

ハートちゃん

目次

• 特集	「JRC オンライン語り部LIVE」、2023年トルコ・シリア地震における日本赤十字社の活動、ラオス人民民主共和国での救急法普及を支援	P 1
• 1	災害救護事業 地震・豪雨などの災害への備え	P 5
• 2	国際活動 グローバルな赤十字のネットワーク	P10
• 3	医療事業 地域の中核病院として地域医療に貢献	P11
• 4	看護師養成 質の高い赤十字看護師の養成	P13
• 5	血液事業 安定的に安全な血液を確保	P14
• 6	いのちと健康を守る赤十字の講習 健康で安全な生活を送るために役立つ講習	P15
• 7	赤十字奉仕団・赤十字ボランティア 赤十字を支えるボランティア活動	P16
• 8	青少年赤十字 (JRC) 子どもたちの優しい心を育てる赤十字	P18
• 9	会員と活動資金 赤十字を支える県民の皆様の善意	P20
• 10	赤十字思想の普及 赤十字への理解を深めるイベントなど	P22
• 11	令和4年度決算	P23

・特集「JRC オンライン語り部LIVE」

当支部は、被災地にある赤十字として、発災直後から復興まで息の長い支援を続けてきました。震災から10年目となった令和2年度からは、震災の記憶や教訓を次世代につなぎ、災害から命を守る取り組みのひとつとして、全国のJRC加盟校の子どもたちに語り部の生の声を配信する「JRC オンライン語り部LIVE」を行っています。

こうした取り組みを通じて、震災を知らない子どもたちだけでなく、当時を知らない職員が増えていく中において、我々自身も改めて当時を振り返ることが大切だと考えました。

そこで令和4年度は、日赤職員を対象にしたカリキュラムを加え、当時の体験を伝え続けている語り部さんの話と職員自身や家族が被災しながらも救護活動にあたった職員の当時の話を聞き、いのちの大切さや赤十字精神を再確認する機会を設けました。

今後、発生が予想される首都直下地震や南海トラフ地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等あらゆる災害が起きたときのために、全社的に対応力を強化していきます。

〈職員向け〉



〈国際交流〉



〈指導者向け〉



〈生徒向け〉



・特集 (2023年トルコ・シリア地震における日本赤十字社の活動

2023年2月6日(月)現地時間午前4時17分(日本時間同10時17分)、トルコ南東部のシリア国境付近を震源とする地震とその余震により、数十万の建物が損壊し、両国合わせて5万6,000人以上が犠牲となる甚大な被害を受けました。多くの人びとが家を失い、避難を余儀なくされています。

日本赤十字社(以下、日赤)は、海外救援金の募集を開始するとともに、国際赤十字を通じた資金援助、救援物資の寄贈や薬剤師等の派遣と医薬品の寄贈、救援車両支援などを行ってきました。引き続き、両国の赤新月社の救援活動を支援しつつ、中長期的な復興支援活動を支えていきます。

「2023年トルコ・シリア地震救援金」

東日本大震災を経験した地域ならではの想い、また当時のトルコからの支援に対する感謝の気持ちからの救援金が多く寄せられました。

受付期間：2023年2月9日(木)～2023年5月31日(水)

使途：国際赤十字・赤新月社連盟(以下連盟)に対する資金援助、トルコ赤新月社(以下、トルコ赤)並びにシリア赤新月社(以下、シリア赤)による救援・復興活動、日赤による救援・復興活動等に使われます。

〈宮城県支部への救援金寄託〉



聖和学園高等学校



東北高等学校



仙台市立桜ヶ丘中学校

「トルコでの活動～震災から2か月経過現在」

○日赤からの支援で巡回診療の強化を実施

3月上旬に日赤からトルコに医療調査チームを派遣し、保健・医療ニーズにかかる調査を行いました。日赤はこの調査結果をふまえて、トルコ赤が行う巡回診療サービスの強化に向けた支援を行うことを決定しました。

トルコ赤は保健省からの依頼を受け、特に被害の大きい人口約700万人が住む6州(Gaziantep, Kahramanmaraş, Hatay, Adiyaman, Malatya, Osmaniye)の保健医療を支えるため巡回診療車を通じた保健・医療支援を行っています。

当該地域では、医療施設の倒壊や医療職の流出により医療システムが十分機能していない状態であることから、トルコ赤は、急遽、検診車8台を借り上げて、医師・看護師等からなるチームを乗せて巡回診療のサービスを提供しています。

トルコ赤から日赤に対して、この6州の中で、特に支援の手が届きにくい山間部や農村部で長く避難生活を送らざるを得ない被災者に対しても保健・医療を適切に届けるため、巡回診療車と必要な医療資機材、そして医師・看護師ら医療者を組み合わせた支援を行いたいとの打診がありました。

依頼を受け、日赤は、緊急に支援が必要な車両及び医療資機材の調達のため、3億円の資金援助を実施しました。

日赤は、これから、この活動を中長期的に支援すべく、巡回診療にかかる経費の支援とともに、日赤・トルコ赤のこれまでの災害対応・防災・減災の知見を相互共有していく予定です。



トルコ赤が実施する巡回診療サービスの支援

○緊急ニーズに即した救援物資を支援

トルコでは、数百万人が家を失い、未だテントなどでの避難生活を余儀なくされています。日赤はマレーシア・クアラルンプールの倉庫に予め備蓄していた救援物資の中から、飲料水用容器5,000個、毛布10,000枚、ブルーシート10,000枚、キッチンセット2,000セットをトルコ赤に寄贈しました（支援実績 約5,500万円）。2月27日に第一便の物資がアンカラに届き、順次被災地域で配付されています。



クアラルンプールの倉庫からトルコに運ばれる救援物資 ©IFRC

〔トルコへの支援実績（2023年4月18日時点）〕

- ・ 連盟アピールを通じた資金援助（7億1,000万円（うち3億円は食料支援へ用途指定））
- ・ 巡回診療支援（2億6,500万円）
- ・ 救援物資支援（5,500万円）
- ・ 衛生（シャワー）車両支援（1億600万円）
- ・ 車両支援（9,100万円）
- ・ 追加車両支援（1億円） 合計 13億2,700万円

「シリアでの活動～震災から2か月経過現在」

日赤は、トルコ・シリア地震で被災したシリアにもこれまで継続的に連絡調整員を派遣し、現地でシリア赤が行う活動を支援してきました。

この度、地震の被害に加え、これまでの内戦や経済制裁の影響で復旧の見通しが立たない保健医療分野を重点的に支えるため、シリア赤に資金援助を行いました。

また、同分野における活動を支援するため、日赤から国際赤十字保健医療コーディネーターを派遣しました。

○巡回診療チームの支援

日赤は2011年以降継続的にシリア赤の巡回診療チームの支援を行っています。シリア赤は武力紛争による病院への被害などの影響を受け、地震以前からへき地に住む人びとの健康を守るために巡回診療チームを派遣していました。

日赤は、地震後すぐにこの支援を拡大、現在12チームの活動を支えています、さらに規模を大きくして32チームの支援を行います。



シリア アレppoの巡回診療車 ©SARC



シリア ラタキアでの巡回診療の活動 ©SARC

○移動型保健医療チームの支援

シリア赤には、上記の「巡回診療チーム」のほかに、定期的に各拠点を訪問し、保健サービスや教育活動を行う「移動型保健医療チーム」を運営しています。全国に28チームあり、産婦人科医・助産師・こころのケアや保健啓発ボランティアなどでチームを編成して僻地に赴いており、手洗いの仕方や母子保健についての知識の普及なども行っています。



ラタキアでコレラの啓発セッションを行うシリア赤ボランティア ©SARC

○日赤から国際赤十字保健医療コーディネーターを派遣

上記の活動を現地できめ細かく指揮・サポートするため、2023年4月に看護師をシリアに派遣しました。

[シリアへの支援実績 (2023年4月18日時点)]

- ・連盟アピールを通じた資金援助 (3億1,000万円)
- ・赤十字国際委員会 (ICRC) アピールを通じた資金援助 (1億円 (そのうち3,000万円は物資支援へ使途指定))
- ・パレスチナ赤新月社シリア支部への緊急資金援助 (1,000万円)
- ・シリア赤巡回診療等保健医療支援 (2億円)
- ・医薬品支援 (300万円) 合計 6億2,300万円

●特集 (ラオス人民民主共和国での救急法普及を支援

日赤は、国内と並行して、海外への救急法の普及支援を行っています。今回、令和元年度に支援^{※1}を開始してから、初となるラオス赤十字社(以下、ラオス赤)への現地訪問を行いました。

ラオスは人口1,000人当たりの医師数が0.272人^{※2}と医療水準が低いため、住民自身で応急手当ができることが非常に重要で、手当を伝える指導者の育成が求められ、その指導者養成講習の指導支援に当支部職員も参加しました。

ラオス赤本社及び国内6支部から集まった新指導者は、知識・技術の習得と指導力の向上のために真剣に取り組み、今後、地元の学校を中心に救急法を広めていきます。



現地職員と実技に取り組む相原指導員 (写真右側)

※1 日赤が支援した資金は、資材(人形等)の購入や指導者養成、救急法講習等の開催に役立てられています。令和4年度は宮城県支部から558,000円の支援を行いました。

※2 2015年時点の数値 世界平均は1.804人

1 (災害救護事業)

日本赤十字社の災害救護活動は、赤十字の基本理念である「人道」に基づいて独自に行う場合と、災害対策基本法や災害救助法で定められた国及び地方自治体が行う災害救助業務に指定公共機関という位置付けで協力して活動する場合があります。宮城県支部では常に災害に備えて救護員を養成し、訓練を重ね救護資器材を計画的に整備して災害救護体制が万全になるよう努めています。

1. 災害救護活動等

(1) 災害救護活動実施状況

令和4年度は、7月15日に発生した大雨において警戒体制をとり、情報収集を行いました。医療救護活動は行いませんでしたが、長く避難所が開設された地域へ救援物資を配付しました。

【令和元年台風第19号災害の対応】

同災害で災害救護活動を実施した宮城県支部では、令和2年度から大郷町で被災者支援活動を実施してきました。

応急仮設住宅に入居されている方々へのこころのケア活動を自治体、社会福祉協議会及び宮城県臨床心理士会等と協働して行っていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響から中止を余儀なくされていました。宮城県の感染拡大防止期間が終了する令和4年5月末から支援を再開し、被災者の生活拠点が公営住宅や再建した自宅への移行が進んできたため、令和5年1月より町や社会福祉協議会および支援者団体で構成する「被災者支援に関する協議体」に参画して、住民の要望に対応し、高齢者への支援講習や防災セミナーなどの実施を予定しております。



赤十字茶会の様子

(2) 臨時救護活動

大崎八幡宮どんと祭や仙台・青葉まつりなどのイベントに臨時救護所を設置し、傷病者の応急手当を行いました。

件数	派遣救護員数(延べ)								取 扱 患者数
	医師	看護師長	看護師	主事	奉仕団員	支部職員	その他	合計	
23件	21名	6名	35名	39名	25名	18名	0名	144名	170名

2. 災害への備え

日本赤十字社の医療救護班1個班の編成は、医師1人、看護師長1人、看護師2人、主事2人の計6人を基準としており、災害の状況や規模などにより要員の増減、薬剤師等の必要な職種を追加する体制となっています。

宮城県支部では、災害救助法第16条及び宮城県地域防災計画等に基づき、医療及び助産についての救護、遺体の処理等について宮城県および仙台市と委託契約を結び、仙台・石巻両赤十字病院が医療救護班を常時編成して訓練を重ね、装備を充実させて常時出動できる体制を維持しています。

また、防災・減災の普及啓発活動や防災ボランティアの育成などの研修に取り組んでいます。

(1) 医療救護班の編成状況

災害による被災者の救護活動を迅速かつ的確に実施するため、仙台・石巻両赤十字病院に医療救護班計16個班を常備しています。

病院	救護班	所属救護員数						合計
		医師	看護師長	看護師	助産師	主事	薬剤師	
仙台	7個班	14名	7名	18名	1名	20名	5名	65名
石巻	9個班	10名	6名	23名	1名	22名	8名	70名

(2) 日赤災害医療コーディネーターチーム

日赤災害医療コーディネーターチームは、災害時に効果的・効率的な医療救護活動ができるよう医療ニーズの把握及び他の医療チームとの連携・調整を図るため社長が任命しています。



日赤災害医療コーディネーターチームの活動風景
(令和元年台風第19号災害)

施設名	コーディネーター	コーディネータースタッフ		
	医師	看護師長	看護師	主事
仙台赤十字病院	2名	2名		2名
石巻赤十字病院	4名	4名	5名	6名
宮城県支部	2名(※)			6名

※東北大学病院及び宮城県立こども病院医師をコーディネーターとして任命。

(3) 災害救護訓練

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、予定されていた訓練は一部のみの実施となりました。

訓練名称	実施日	場所	参加者				計
			仙台 日赤	石巻 日赤	血液 センター	支部	
北上川下流及び江合川鳴瀬川・総合水防演習	5/29	大崎市	8名			3名	11名
宮城県沖地震対応総合図上訓練	6/10	宮城県庁 (オンライン参加)		1名		1名	2名
仙台市総合防災訓練	6/10	宮城県消防学校	7名			1名	8名
海上保安庁合同訓練	9/28	宮城県沖地	7名	8名		4名	19名
大規模地震時医療活動訓練	10/1	愛知県	5名	5名			10名
石巻医療圏災害保健医療対応訓練	11/12	石巻赤十字病院	2名	27名		3名	32名
厳冬期災害演習	1/21-22	北海道北見市		1名		1名	2名



6.12 仙台市総合防災訓練 (仙台赤十字病院)



海上保安庁合同訓練



石巻医療圏災害保健医療対応訓練 (石巻赤十字病院)

(4) 県内各地への救護装備資材の配備

宮城県支部では、災害が起こった時に各地域で速やかに救援活動が行われるよう、計画的にテントや救護資材倉庫などを県内各地に配備しています。日常的に防災訓練のほか、訓練を兼ねて地域のイベントなどでも利用されています。

【令和4年度救護装備資材配備内訳】

地区名	配備先	ワンタッチテント	救護資材倉庫	赤十字災害救護等車両 「はくあい号」
仙台市地区本部	奉仕団	青葉区地区(五橋奉仕団)		
仙台市地区本部	奉仕団	青葉区地区(川平奉仕団)		
仙台市地区本部	奉仕団	青葉区地区(中江奉仕団)		
仙台市地区本部	支所		青葉区地区(宮城支所)	
仙台市地区本部	奉仕団	宮城野区地区(東仙台奉仕団)		
仙台市地区本部	奉仕団	宮城野区地区(高砂奉仕団)		
仙台市地区本部	奉仕団	宮城野区地区(燕沢奉仕団)		
仙台市地区本部	奉仕団	太白区地区(八本松奉仕団)		
仙台市地区本部	奉仕団	太白区地区(東中田奉仕団)		
仙台市地区本部	奉仕団	泉区地区(上谷刈奉仕団)		
仙台市地区本部	奉仕団	泉区地区(明石南奉仕団)		
岩沼市地区	地区	岩沼市地区	岩沼市地区	
気仙沼地区	地区	気仙沼地区		
登米市地区	分区	米山分区		
登米市地区	分区	津山分区		
栗原市地区	分区	一迫分区	一迫分区	
栗原市地区	分区	金成分区		
栗原市地区	分区		志波姫分区	
大崎市地区	分区	三本木分区	三本木分区	
仙南地区	分区	柴田町分区		
仙南地区	分区			川崎町分区
仙台地区	分区	七ヶ浜町分区		
仙台地区	分区	利府町分区		利府町分区
仙台地区	分区	大郷町分区		
仙台地区	分区	大衡村分区		
大崎地区	分区			色麻町分区
合計		22張	5棟	3台

(5) 救援物資の配布

宮城県支部では、大規模災害の発生時はもちろん、住宅火災など日常で起こる災害の際にも毛布などの救援物資を配布しています。

なお、大規模災害が発生した際は、全国の支部が協力して備蓄している物資を被災地に届けます。

被災区分	被災世帯	被災人数	救援物資			
			毛布	緊急セット	安眠セット	タオルケット
全 焼	30世帯	84名	88枚	34組	8組	9枚
全 壊	0世帯	0名	0枚	0組	0組	0枚
半 焼	8世帯	19名	15枚	9組	0組	0枚
半 壊	0世帯	0名	2枚	1組	0組	0枚
床上浸水	0世帯	0名	0枚	0組	0組	0枚
避難所	3世帯	5名	19枚	0組	0組	0枚
その他	8世帯	19名	19枚	7組	0組	0枚
合計			143枚	51組	8組	9枚



災害救援物資(緊急セット)

(6) 救護員等研修

研修や訓練を通じて、災害救護に必要な知識や技術を身に付けた救護員の養成や、平時からの研修や訓練などを通じて発災時にいち早く駆け付けて救護活動ができるように体制を整えています。

名 称	主 催	開催数	延日数	延参加者数
救護班要員研修	仙台赤十字病院	1回	1日	70名
	石巻赤十字病院	1回	2日	64名
救護班要員候補研修	石巻赤十字病院	1回	2日	62名
救護班出動訓練	石巻赤十字病院	1回	1日	46名
大規模地震災害実働訓練	石巻赤十字病院	1回	1日	336名
災害時本部運営訓練	石巻赤十字病院	1回	1日	16名
テント設営（エアータント）	石巻赤十字病院	1回	1日	24名
トリアージⅠ研修（訓練前研修）	石巻赤十字病院	1回	2日	39名
トリアージⅡ研修（訓練前研修）	石巻赤十字病院	1回	2日	53名
石巻管内災害保健活動研修会	石巻赤十字病院	1回	2日	79名
避難所環境整備研修会	石巻赤十字病院	1回	1日	14名
こころのケア要員研修	石巻赤十字病院	1回	1日	16名
こころのケア指導員養成研修	日本赤十字社本社	1回	2日	2名
日赤災害医療コーディネート研修会	日本赤十字社本社	1回	2日	10名
全国赤十字救護班スタッフ研修会	日本赤十字社本社	1回	2日	12名
日本DMAT養成研修	厚生労働省	1回	5日	17名
DMAT技能維持研修	厚生労働省	1回	2日	7名
日本赤十字社原子力災害対応基礎研修	日本赤十字社本社	1回	2日	18名
原子力災害対応研修（養成）	石巻赤十字病院	1回	1日	7名
原子力災害基礎研修	高度被ばく医療支援センター	1回	1日	5名
原子力災害医療基礎研修	高度被ばく医療支援センター	1回	1日	7名
原子力災害中核人材研修	高度被ばく医療支援センター	1回	3日	3名
一般緊急自動車運転技能者研修会	安全運転中央研修所	1回	4日	4名
宮城県医療救護活動従事者研修	宮城県	1回	1日	1名
宮城県災害医療技能研修	宮城県	1回	1日	11名



救護班要員研修（石巻赤十字病院）

(7) 防災教育事業

県民の皆様一人ひとり、あるいは地域の防災・減災力の向上のため、災害からいのちを守り、対処していく知識や技術を学ぶ「チャレンジ防災セミナー」（個人対象）、地域コミュニティの自助・共助を高めるための「防災・減災」への新たな取組みを模索し、防災力を向上させることを目的として全国で展開している「防災教育事業（赤十字防災セミナー）」（地域対象）、親子で学ぶ「親子防災スクール」（親子対象）を実施しています。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、感染予防対策を図った上で計画しましたが、一部のチャレンジ防災セミナー及び赤十字防災セミナーのみの実施となりました。

また、青少年赤十字（JRC）事業でも、子どもたちを対象とした防災教育の普及に取り組んでいます。（青少年赤十字のページも併せてご覧ください。）

名称	実施日	会場	対象	参加者数
チャレンジ防災セミナー	10/8	宮城県赤十字血液センター	個人	5名
赤十字防災セミナー	4/26	株式会社トークス（仙台市宮城野区）	社員	5名
赤十字防災セミナー	6/19	郷六町内会	町内会	35名
赤十字防災セミナー	10/2	将監中央コミュニティセンター	町内会	28名
赤十字防災セミナー	10/8	東松島市健康増進センターゆふと	町内会	20名
赤十字防災セミナー	12/6	女川町浦宿2区集会所	町内会	11名
赤十字防災セミナー	12/7	うんどう快（気仙沼市）	地域	26名
赤十字防災セミナー	3/8	宮城県支部（Web配信）	社員	9名

3. 災害義援金の取扱状況

日本赤十字社では、都道府県が募集する災害義援金の受付窓口として、皆様から温かい気持ちをお預かりしています。お預かりした義援金は、被災された方々のために義援金配分委員会（都道府県が設置）に全額をお届けしています。

義援金名称	件数/受付額
平成30年7月豪雨災害義援金	7件/ 43,516円
令和2年7月豪雨災害義援金	17件/ 125,025円
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	41件/ 13,860,842円
令和4年7月大雨災害義援金	55件/ 53,927,988円
令和4年8月3日からの大雨災害義援金	28件/ 371,618円
令和4年台風第15号災害義援金	12件/ 86,366円



令和4年3月福島県沖地震災害義援金の寄託
(ジェイ商事株式会社)

4. 宮城県支部新社屋兼ロジスティクスセンターの建築事業

当支部では、現在、仙台市泉区市名坂に新社屋及びロジスティクスセンターの建築を進めており、令和4年10月に着工し、令和5年7月竣工、10月に移転を予定しています。

この社屋は、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模・広域災害において、全国から参集する救護班要員の一時休憩施設、資機材の補充、情報収集・処理の機能を持つロジスティクスセンターを兼ねており、

- ①いかなる災害でも災害救護活動拠点として実稼動できる施設
- ②関係機関との連携モデルとなる施設
- ③平時から開かれた施設

となるよう計画された施設となっています。



2 (国際活動)

赤十字は、192の国や地域に広がる世界的ネットワークを生かし、人びとの苦痛を軽減し、予防するためのさまざまな活動を行っています。

絶え間なく起こる災害や紛争は人びとの尊い命や財産を一瞬にして奪い去ります。赤十字では被災者への医療や衣食住の支援といった緊急救援だけでなく、その後の復興支援や防災を通じた地域の基盤づくりなど、包括的な災害マネジメントに取り組んでいます。

また、疾病や感染症が世界的脅威となっている今日、健康問題に苦しむ人びとの状態を改善するために、保健衛生分野の活動を重点課題の一つに挙げ、活動を展開しています。

世界を取り巻く環境が刻一刻と変化しても、人道的課題の解決は終わりを見ません。こうした人道問題に対する国民の理解と関心を高めることもまた、赤十字の重要な役割の一つなのです。

1. 第1ブロックの国際支援事業

年々増加する国際事業の要請に応えるため、日本赤十字社全体としての支援に加えて、防災分野や保健衛生分野などの開発協力事業を全国の支部で直接実施しています。

第1ブロック（北海道・東北地区）支部では合同で、救急法普及支援事業及び青少年赤十字海外支援事業を実施しています。

【救急法普及支援事業】

ラオス赤十字社が実施する救急法普及事業への支援として、救急法の技術及び指導方法の助言を行うとともに、講習に必要な訓練用人形、三角巾などの資器材の整備など財政的支援を行っています。

令和4年度には、当支部職員1名を2月18日から7日間ラオス赤十字社に派遣し、現地の救急法指導者を養成する講習への支援を行いました。

【青少年赤十字海外支援事業】

バヌアツ赤十字社が実施する防災教育への取り組みを支援しています。本事業は、第1ブロック支部からの拠出金のほか、日本の青少年赤十字メンバーが集める青少年赤十字活動資金（1円玉募金）も活用して実施されているため、本事業に募金という形でかかわることで、海外の青少年赤十字メンバーが抱える問題について理解を深める教育的効果も期待されています。



高校生を対象にした救急法指導実習
©ラオス赤十字社

事業内容	対象国	当支部支援額	第1ブロック合計
救急法普及支援	ラオス	558,000円	3,000,000円
青少年赤十字海外支援	バヌアツ	558,000円	3,000,000円
支援合計額		1,116,000円	6,000,000円

2. 安否調査

紛争や災害などやむを得ない事情で離ればなれになり、連絡を取り合うことができない家族のため、所在調査を行っています。令和4年度は、宮城県内に関する照会はありませんでした。

3. 海外救援金の受付状況

日本赤十字社では、海外で大規模な自然災害や紛争が発生した時、国際赤十字などを通じた緊急支援や復興支援のため、海外救援金を募集します。

また、日本赤十字社が独自に行う国際支援活動の資金として、毎年12月にNHKとタイアップして実施している「海外たすけあい」キャンペーンなど、普段から国際支援に特化した活動資金を受け付けています。

この海外救援金は、赤十字が実施する被災者支援活動や復興支援活動に全額充てられます。

救援金名称	受付件数/受付額
中東人道危機救援金	3件/ 8,063円
Bangladesh南部避難民救援金	4件/ 9,340円
アフガニスタン人道危機救援金	14件/ 19,751円
2022年アフガニスタン地震救援金	17件/ 66,719円
2022年パキスタン洪水救援金	15件/ 19,951円
ウクライナ人道危機救援金	277件/ 22,450,355円
2023年トルコ・シリア地震救援金	458件/ 26,509,804円
無指定（※支援先を指定しない海外救援金）	3件/ 24,069円
NHK海外たすけあい	455件/ 2,871,367円



海外たすけあいオープニングセレモニー
(NHK仙台放送局)

3 医療事業

1. 仙台赤十字病院

当院は、昨年からはまった中期事業計画で「誰もが来てよかったと思える病院にする」をスローガンに各部門で業績改善を図っております。一昨年の秋に植樹した2代目ヒポクラテスの木は1.5mほどの高さにすくすくと成長し、当院のシンボルツリーとして当院の成長を見守ってくれるでしょう。

急性期医療では、総合周産期母子医療センター、整形外科が全体的なニーズに応じており、その他、内科、外科などが循環器、呼吸器、透析、がん診療などを担当するほか、回復期医療では、地域包括ケア病棟が、レスパイト入院や、ポストアキュート・サブアキュート入院に応じており地域医療に貢献しています。

政策医療については、周産期医療、小児医療のほか、災害医療、救急医療、地域医療を担当しており、とくに災害医療については、DMAT隊のほか救護班6班体制を編成しており災害救護に備えるほか、仙台八木山防災連絡会に協力し地域の防災訓練などを行っています。救急医療では、仙台市病院群当番制事業に参加し、従来の1.5倍となる年間2,200件の救急車受け入れを行っています。また、地域医療支援病院として年間の紹介率は75.9%、逆紹介率は101.9%と地域医療に貢献しております。

新型コロナウイルス感染症の対応については、中等症～軽症患者を妊婦、小児を含め多くの患者さんの入院受け入れを行いました。

当院では教育研修推進室が、職員の教育研修を統括するとともに、研修医の受け入れ体制を強化しております。昨年の日赤医学会総会では研修医のセッション(ドクター.G)で4位と健闘しました。そして、令和5年度もフルマッチで6名の初期研修医を受け入れることができました。職員のQC活動も活発化しており、各部署の業務改善が期待されます。医師の働き方改革については、医師事務作業補助者を増員し負担軽減を図るとともにワークライフバランスチームが啓蒙に努めております。

病院からの情報発信ですが、講演会や連携の集いを令和5年より対面での開催で再開する予定です。また、ホームページを一新しスマホでもみられる情報発信を強化しております。

一昨年9月に宮城県知事から当院を含む4病院統合計画が発表されました。具体的な構想はまだ未定の段階ではありますが、本社医療事業推進本部との密接な連携のもとに地域医療のために将来設計を行っていきたく考えております。

昨年3月の福島沖地震で病棟の一部が損壊し3ヶ月間使用不能となり、さらに新型コロナウイルス感染症の院内発生により3回の病棟閉鎖を余儀なくされた影響が大きく、経営収支は、前年度比で、医業収益が0.4%の減、医業費用が7.2%増となり、医業収支差し引き額は10.3億円の大幅な赤字となり、事業収支差し引き額も1.7億円の赤字を計上いたしました。昨年度より3カ年の中期事業計画が進行中で、各部門の業績改善を図るとともに、急性期、回復期両機能において高度で効率的な機能を果たすことを目指してまいります。

令和4年度診療実績

区 分		患者数
入 院	延患者数	81,253名
	1日平均	223名
外 来	延患者数	125,930名
	1日平均	518名



仙台赤十字病院



2代目ヒポクラテスの木



新型コロナウイルス事例検討会



令和4年度仙台市総合防災訓練

2. 石巻赤十字病院

当院は、「世界一強く、そして優しい病院」をビジョンに掲げ、「働きがいのある職場づくり」「高度・急性期医療への集中」「業務プロセスの最適化」という3つの戦略のもと、様々な施策を展開してきました。

地域医療連携については、地域の各医療機関と切れ目のない医療を提供するため、がんや肺炎、COPDに加え、大腿骨頸部骨折や心不全等の疾患別地域連携ネットワークの拡充を進めています。併せて、患者さんがスムーズに入院を迎え、望ましい状態で退院・転院し、地域で安心して継続的に医療・介護・福祉サービスを受けることができるよう、院内においては入院前・退院前の早期支援体制の整備、院外とは各医療機関や在宅支援チームとの連携体制の整備を進めています。コロナ禍においても地域住民への啓発活動（出張出前講座）や保健所と協働して地域の介護スタッフへの教育活動なども行なっています。

救命救急医療では、「断らずに済む」診療体制を維持し、令和4年度は28,071人の救急患者を受け入れ、地域の救命救急センターの役割を担ってきました。

地域がん診療連携拠点病院の整備指針に基づいて地域におけるがん診療連携の円滑な実施を図るとともに、質の高いがん医療の提供体制の確立を目指しています。がん患者やその家族ががん治療に伴って抱える不安や辛さに対しては、がん相談支援センターや緩和ケアセンター、がん看護外来など多職種で連携してサポートしていく体制を構築しています。

臨床研修指定病院としては、若手医師の確保・定着を目的に、令和3年度募集より定員を増加し募集をしています。新型コロナウイルス感染症拡大の影響でリクルート活動の制限が続く中、例年と変わらず全国各地の大学から医学生が集まりました。内科と外科の専門研修プログラムを有していますが、それぞれ採用者を確保し、専門医育成にも尽力しています。また、特定行為研修指定研修機関として認められ、令和元年から看護師が特定行為を行う際に必要とされる高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修を開始しました。令和4年度までに延10名が修了し、臨床現場で活躍しています。

災害救護活動として、救護班の派遣を必要とする実災害は発生しませんでした。新型コロナウイルス感染拡大に係る感染制御・業務継続支援チームを医療圏内の施設に派遣しました。令和4年7月には、新型コロナウイルス感染症疑いの患者を想定したマニュアルの検証を目的に大規模地震災害実働訓練を実施し、当院職員と看護学生ら約330名が参加しました。11月には石巻医療圏災害保健医療対応訓練を実施し、市町や保健所の職員、地域災害医療コーディネーター・救護班、看護学生等220名が参加しました。訓練では、各医療圏保健医療調整本部の運営や連携を確認し、避難所アセスメント実施による情報収集や分析等を通じて、各機関の情報伝達や連携を強化し、災害医療活動の習熟を図りました。

設備投資としては、原子力災害拠点病院に対する要求を満たし、その機能を充実する必要から原子力災害医療棟の整備を進め、令和4年12月に完成しました。既存設備の更新については、10～15年の中長期計画を基に計画的に実行しており、併せて新型コロナウイルス感染症対策目的での医療機器等の整備も行っています。

令和4年度診療実績

区 分		患者数
入 院	延患者数	150,597名
	1日平均	413名
外 来	延患者数	259,256名
	1日平均	1,067名

令和4年度の経営収支について、新型コロナウイルスの診療制限が縮小され、患者数の増により入院・外来診療収益ともに増収し医業収益は前年度比6.6%増となりました。医業費用は、高額薬剤医薬品の消費増と給与費の増などにより前年度比8.5%増となり、医業収支は大幅な赤字となりました。医業外収支においては、新型コロナウイルス感染症対策事業医療提供体制整備事業補助金（病床確保料）が減少しましたが、利益を計上しました。最終的な総収支は、258,404,569円の赤字決算となりました。



石巻赤十字病院



原子力災害医療棟



原子力災害医療棟処置室



大規模災害実働訓練



研修医集合写真

4 (看護師養成

石巻赤十字看護専門学校

1. 教育について

令和4年度は、昨年に引き続いてのコロナ禍で、設置病院（石巻赤十字病院）の感染対策本部との連携をとりながら教育活動を行った1年でした。講師や学生が自宅待機となった時にはオンラインを利用した授業を継続し、実習においても自宅からオンラインを使用した実習を試みました。臨地実習に関しては今年度も、設置病院の協力を得て、可能な限り臨地に出向きましたが、受け入れ病棟の状況によっては、その病棟に割り当てられた学生が学内実習へ切り替わることもありましたが、結果として、臨地実習の経験に個人差が生じる事態となりましたが、学生は学内実習であっても真剣に取り組み、実習課題を無事に達成できました。意図せずに生じてしまった個人差については次学年で優先的に臨地実習できるように調整することにしています。可能な限り学生の不利益にならないように創意工夫して学業継続した結果、コロナ関連での自宅待機となる学生が前年度と比較して増加したにも関わらず、補習や再実習を必要とする学生は減少し、無事に全員が卒業・進級できました。このような万全とは言えない状況の中でも、年度末に実施している教育目標到達度自己評価では、全学年とも8つある教育目標への評価の平均が、5段階評価の4.0以上であり、学年目標への到達はできていると評価していました。学生は柔軟に環境に適応しながら学習に取り組んでいることを実感しています。

また、今年度も入学式、宣誓式や保護者会は参加人数の縮小およびオンラインを使用して行いました。昨年、保護者から学校での様子が知りたいとの要望があったことから、学校ホームページをイベント毎に更新して情報の配信に努めました。3月以降、コロナ関連対策が緩和されてきており、式典や保護者会についても徐々にコロナ以前に戻していく方針です。

2. 教育環境の整備

長期間に渡るコロナ対策やコロナ感染後遺症による学生の心理面への影響を考慮し、学校カウンセラー相談室を継続し、支援しています。

前年度に引き続きコロナ対策のためにクラブ活動や学校イベントが縮小・中止となり、学年を超えて活動する機会を持つことができませんでした。学生は学年を超えての交流を要望しており、コロナ対策緩和の動きに合わせて活動を拡大・再開していこうと考えています。

また、本校同窓会の支援により導入した新成績管理システムの稼働により、学生個々への学習支援や学生に役立つ情報の提供が可能となりました。今後、積極的に活用し、学生支援に努めてまいります。

3. 受験生・入学生の確保

コロナ禍による制限の中、本校の受験者数、入学者数の多い高校や業者主催の進学説明会への参加や、オープンスクール（参集・オンライン）の実施により募集活動を行いました。結果、出願倍率推薦2.5倍、一般2.3倍（前年度3.7倍）を確保しましたが、仙台市内での新設校の開校、学生の大学志向等による入学希望者数への影響があり、令和4年度はさらに追加募集を行いました。今後、アドミッションポリシーに則した学生の確保に向け、学校説明会への積極的な参加等、取り組みを強化していこうと考えています。

4. 赤十字医療施設への就職状況

卒業生の設置病院への就職者は23名（60.5%）、他の赤十字病院への就職者は3名と赤十字病院への総就職者は26名（68.4%）でした。昨年度よりは上昇していますが、他の赤十字教育施設と比較して少ないため、今後、地域での設置病院の役割に貢献できる看護師の育成について、設置病院教育担当者とともに協議を進め赤十字医療施設への就職率の向上に努めていきます。

さらに、地域における設置病院の役割に貢献できる看護師を育成するために、設置病院の教育担当部門と協働して2年生への進路ガイダンスや、学生の希望に合わせた講師の検討等を継続して行っています。これにより学生は明確なキャリア構想を述べられるようになっていきます。今後も、設置病院と協働で学生へのキャリア支援を進めていきたいと考えています。なお、赤十字以外の病院への就職者は11名（28.9%）、進学者は1名（大学看護学部への編入）でした。

5. 地域との連携・社会貢献

コロナ禍ではありましたが、宮城県赤十字血液センターから学生奉仕団へ依頼があり、年間71ヶ所の献血キャンペーンでボランティアとして活動しました。学生の活動により献血者が増えたとの評価を頂きました。今後も社会に貢献できる活動を継続してまいります。



石巻赤十字看護専門学校



血圧測定技術演習の様子



宣誓式の様子



救急員養成講習の様子

令和4年度在校生

学 年	学生数
第1学年	40名
第2学年	40名
第3学年	40名
計	120名

(令和5年3月31日現在)

5 (血液事業

日本赤十字社は、安全な輸血用血液製剤を安定的に供給し、輸血を必要とする患者さんがいつでもどこでも安心して輸血を受けられるように、全国を7つのブロック（北海道、東北、関東甲信越、東海北陸、近畿、中四国、九州）に分けて、ブロック内の血液の需給バランスの調整を図る広域事業運営を行っています。

宮城県赤十字血液センターは、過疎化、少子高齢化が進む東北6県をエリアとする東北ブロックに属し、ブロックの中で人口が最も多く若年層の割合が高いことから、献血者確保の中心的な役割を果たしています。

また、輸血用血液製剤は、採血後限られた時間内で調製しなければならないため、面積の広い東北ブロックにおいて、製造業務を行う東北ブロック血液センターに隣接する宮城県赤十字血液センターは、医療機関の需要に応じて必要な血液を適時に迅速に確保するうえでも、重要な役割を担っています。

令和4年度の全国の献血者数は、5,008,741人（対前年度比-0.9%、44,457人減）で、このうち宮城県では、91,860人（同-1.8%、1,687人減）の皆様にご協力をいただきました。献血種類別では、200mL献血が2,034人（対前年度比-11.7%、270人減）、400mL献血が59,816人（同+1.2%、727人増）、血漿成分献血が18,650人（同-10.0%、2,081人減）、血小板成分献血が11,360人（同-0.6%、63人減）となりました（グラフ1参照）。

一方、令和4年度の全国の輸血用血液製剤供給本数（200mL献血を1本として換算）は、17,244,054本（対前年度比-0.006%、963本減）で、このうち宮城県内の医療機関への供給本数は282,440本（同-2.3%、6,511本減）でした。血液製剤別では、赤血球製剤が100,968本（対前年度比-1.5%、1,521本減）、血漿製剤が37,565本（同+1.6%、579本増）、血小板製剤が143,907本（同-3.7%、5,569本減）となりました（グラフ2参照）。

宮城県では、1人の献血者の血小板を2人の患者さんに輸血できる分割製造用血小板献血も6,151人（対前年度比-7.4%、490人減）の皆様にご協力いただいたことにより、医療機関の需要に応じた血液を確保することができました。

また、少子高齢化が進む中で、宮城県でも10代（令和2年度：4,279人→令和3年度：4,518人→令和4年度：4,280人）、20代（令和2年度：15,503人→令和3年度：14,907人→令和4年度：14,023人）、30代（令和2年度：16,288人→令和3年度：15,434人→令和4年度：14,667人）の献血者をいかに増やすかが喫緊の課題となっています（グラフ3参照）。

しかしながら、令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大およびそれに対する社会全体的な感染防止対策措置の影響を受け、高校、大学等での献血実施の減少、また、献血可能年齢に達する前の小学生を対象とした「けんけつkidsサマースクール」等献血セミナー開催が前年同様、実施出来ませんでした。

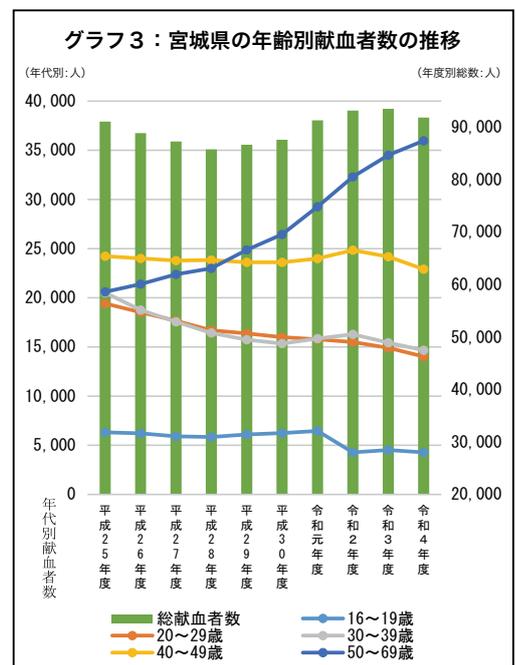
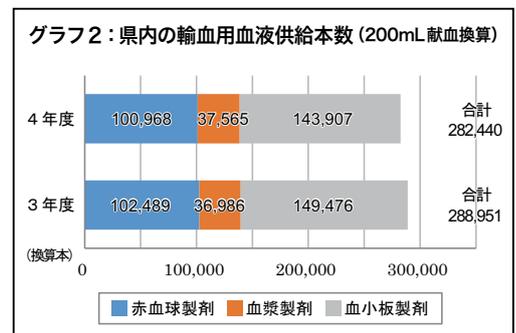
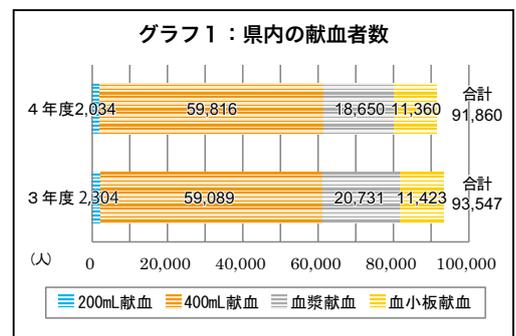
宮城県赤十字血液センターでは、国の掲げる基本方針に基づき、血液製剤の安全性の向上、安定供給の確保とともに、事業の最大限の効率化及び合理化を図り、適正かつ健全な事業運営に努めています。



新しい健診車が配備されました



宮城県赤十字血液センター



6 (いのちと健康を守る赤十字の講習)

「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という理念のもと、事故防止や急病などに対する救命手当・応急手当の方法を学ぶ「救急法」などをはじめ、各種講習を広く一般の方々を対象に開催しています。令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症による開催中止等の影響もあったものの、前年度よりも多くの方に受講していただきました。今後も講習受講を希望される方々のご要望に少しでも応えられるよう、基本的な感染対策を継続しながら、安全な講習の実施に取り組みます。

1. 救急法

病気やけが、災害から自分自身を守り、傷病者を正しく救助し、医師等に引き継ぐまでの救命手当として、「心肺蘇生(人工呼吸を除く)」「AEDを用いた除細動」「気道異物除去」「急病の手当」などの正しい知識や技術を普及しました。

区分	基礎講習	救急員養成講習	短期講習	計
実施回数	45回	19回	133回	197回
受講者数	677名	316名	3,477名	4,470名
修了者数	676名	—	—	
養成者数	—	308名	—	



救急法～一次救命処置

2. 水上安全法

接触する実技を避け、プール用のマスクを着用するなど工夫を凝らし、「水の事故から命を守る」ために必要な「水の事故防止」や「着衣泳」などの知識・技術を普及しました。

区分	救助員養成講習Ⅰ	短期講習	計
実施回数	0回	11回	11回
受講者数	0名	255名	255名
養成者数	0名	—	



水上安全法～陸上から器具を使った救助

3. 健康生活支援講習

「高齢者の健康と安全」「地域における高齢者支援」に役立つ知識を指導しました。

また、災害時に高齢者を不安や不自由な生活から守り、自立した生活が維持できるよう、知識や技術を普及しました。

区分	支援員養成講習	短期講習	計
実施回数	1回	17回	18回
受講者数	6名	457名	463名
養成者数	6名	—	



健康生活支援講習～うた体操
※新型コロナウイルス感染症流行以前の様子

4. 幼児安全法

子どもに起こりやすい事故の予防(安全教育)、一次救命処置として心肺蘇生(人工呼吸を除く)、AEDを用いた除細動、気道異物除去と、病気への対応などの知識や技術を普及しました。

区分	支援員養成講習	短期講習	計
実施回数	9回	97回	106回
受講者数	123名	1,148名	1,271名
養成者数	118名	—	



幼児安全法～幼児の気道異物除去
※アカチャンホンポ仙台泉店での様子

7 赤十字奉仕団・赤十字ボランティア

赤十字奉仕団には、市区町村の地域ごとに結成されている「地域赤十字奉仕団」、青年・学生によって組織されている「青年赤十字奉仕団」および看護師資格やその他の専門技術・知識（アマ無線、ビューティーケアなど）を有する方々で組織された「特殊赤十字奉仕団」があり、地域でのボランティア活動や赤十字活動のサポート役として日々活動しています。

また、個人登録のボランティアとして、日赤の災害救護活動をサポートする防災ボランティア、赤十字病院や献血ルームでの日常的なボランティアなど、多くの方が赤十字ボランティアとして活動しています。

令和4年度は、依然続くコロナ禍で対面や接触が思うようにできないなか、各奉仕団は感染予防対策を講じながら可能な範囲で活動しました。独自で赤十字をPRするチラシや新聞などを作成し、赤十字へのさらなる理解と協力を求めた地域赤十字奉仕団や、専門分野以外の活動を模索し、地域の清掃や学校行事へ参加した特殊赤十字奉仕団など、各奉仕団では様々な工夫を凝らして活動しました。

赤十字ボランティアの皆さんが、赤十字の一員として主体的に活動ができるよう、内部体制の整備に努め、さらに地域の日赤窓口である地区・分区と連携し、引き続き活動の活性化を図ってまいります。

1. 赤十字奉仕団結成状況

種 別	奉仕団数	団員数
地域赤十字奉仕団	137団	10,423名
青年赤十字奉仕団	3団	327名
特殊赤十字奉仕団	12団	327名
合 計	152団	11,077名



赤十字奉仕団基礎研修会の様子（仙台市太白赤十字奉仕団）

2. 会議・研修等の開催状況

宮城県支部では、赤十字や奉仕団等の基礎的な理解を深めるための「奉仕団基礎研修会」、リーダー育成のための「奉仕団リーダーシップ研修会」、各委員長の情報共有の場となる「奉仕団委員長会議」などを開催して活動の活性化を促進するとともに、本社や第1ブロック（北海道・東北地区）の会議・研修会への積極的な参加をお願いしています。

令和4年度は、参集型の会議や研修会の多くが中止となるなか、以下の会議研修が開催されました。

会議・研修会名	会 場	参加者
赤十字奉仕団中央委員会	本社	1名
赤十字奉仕団・青少年赤十字指導講師会議	支部	7名
赤十字奉仕団宮城県支部委員会	支部	15名
赤十字奉仕団基礎研修会	10奉仕団	241名



地域での清掃活動に参加（仙台市中山赤十字奉仕団）

3. 赤十字防災ボランティア

日本赤十字社では、日赤の災害救護活動をサポートする「防災ボランティア」を募集しています。

宮城県支部では、現在約90名が登録しており、毎年、災害時に活動するための知識と技能を研鑽する研修会を開催しています。

（令和4年度は中止）



段ボールベッドの搬送作業に協力する防災ボランティア

4. 青年赤十字奉仕団第1ブロック協議会

統一キャンペーン

令和4年度の統一キャンペーンは、コロナ禍で実活動を伴うキャンペーンが実施できないため、オンラインで各団の活動状況等を情報共有し、交流を深める場としました。近年の激甚化、広域化、頻発化の傾向にある大規模災害に対し、コロナ禍を踏まえてどのように関わることができるのかを共通テーマとして青年赤十字奉仕団の視点から議論し、ブロック内の青年赤十字奉仕団員の関係性強化を図る有効な機会となりました。



オンラインで参加した第1ブロック青年赤十字奉仕団員

5. 赤十字奉仕団活動奨励事業

奉仕団活動をより一層活性化するため、本社が掲げる全国共通活動項目を活動内容とする事業に対し、活動奨励事業助成金を交付しています。

長引くコロナ禍で中止を余儀なくされた奉仕団もありましたが、前年度に比べ、様々な工夫を凝らしながら実施した奉仕団が増えています。

活動内容（全国共通活動項目）	実施団数	助成額
少子高齢社会に対応した地域高齢者福祉支援活動	49団	4,212,496円
災害に対する救援・防災訓練等の活動	7団	566,661円
献血推進や赤十字の理念を達成するための活動	6団	432,976円
合計	62団	5,212,133円



気仙沼市地区赤十字奉仕団 上地区分団「友愛訪問」
高齢者や要介護者の見守り事業として30年以上続く

・8 (青少年赤十字 (J R C)

青少年赤十字は、将来を担う青少年が赤十字を正しく理解し、進んで赤十字運動に参加することで、世界の平和と人類の福祉に貢献できるように、日常生活の中で望ましい人格と精神を自ら創り上げることを目的とした事業です。

学校の先生を指導者として、幼稚園・保育所・認定こども園等の施設、特別支援学校、小・中・高等学校の中に組織され、幼児教育・学校教育の中で進められています。「気づき、考え、実行する」という態度目標に基づき、世界の青少年赤十字に共通している次の3つの実践目標を掲げて子どもの発達段階や学校内外の実情に応じた活動を展開しています。

令和4年度は、引き続き前年度からの新型コロナウイルス感染拡大防止の対応のために、これまで実施してきた事業や学校での活動に大きな支障を及ぼし、規模の縮小や中止が多くなりました。一方、感染の状況により参集しての活動やオンラインによる事業を行い、県指導者協議会関係の会議もオンラインにより実施しました。

また、令和4年は、日本において青少年赤十字が創設されてから100周年となりました。加盟校にはロゴマークのバッジやシールを配布し、地区指導者協議会の事務局校にはのぼり旗を掲げて青少年赤十字の広がりにもめました。

1. 青少年赤十字の3つの実践目標

- ①生命と健康を大切にする。(健康・安全)
- ②人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する。(奉仕)
- ③広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う。(国際理解・親善)



ロゴマーク

2. 市町村別加盟状況

区 分	幼稚園			保育所			認定こども園			小学校			中学校			義務教育校			高等学校			特別支援学校		
	加盟校数	メンバー数	指導者数	加盟校数	メンバー数	指導者数	加盟校数	メンバー数	指導者数	加盟校数	メンバー数	指導者数	加盟校数	メンバー数	指導者数	加盟校数	メンバー数	指導者数	加盟校数	メンバー数	指導者数	加盟校数	メンバー数	指導者数
仙 台 市	1	77	9	7	298	111	3	175	46	12	5,068	303	10	3,866	201				9	359	170	2	29	88
白 石 市										2	232	14							2	45	3			
蔵 王 町																			1	30	2			
大 河 原 町										1	384	14	2	743	45				2	68	40			
柴 田 町										2	793	27	2	756	56							1	7	4
村 田 町	1	94	16							1	322		1	79	13				1	4	1			
川 崎 町	1	15	6				1	104	13	3	306	26	2	171	27				1	11	11			
角 田 市										3	831	31	1	214	19									
塩 竈 市										1	218	17	1	339	25									
利 府 町																			1	18	2			
多 賀 城 市				2	25	16	2	110	18	1	850	33	1	424	27				1	831	50			
大 和 町										1	18	3												
富 谷 市				2	29	18	1	23	11				1	241	5				1	21	1			
大 衡 村										1	385	23	1	168	19									
名 取 市				1	10	9	1	64	23	3	2,311	79												
岩 沼 市				3	68	17				4	2,421	161	4	1,306	66									
巨 理 町				1	12	5																		
山 元 町	1	82	9																					
大 崎 市													1	622	40				1	9	3			
栗 原 市	2	131	30				1	65	53	9	1,956	175	1	249	24	1			3	242	33			
登 米 市										1	111	21	2	124	49									
石 巻 市										3	764	31	2	274	25				2	623	51			
気 仙 沼 市										1	182	17												
合 計	6	399	70	16	442	176	9	541	164	49	17,152	975	32	9,576	641	1	0	0	25	2,261	367	3	36	92
加 盟 率	210園中2.9%			398所中4.0%			149園中6.0%			367校中13.4%			203校中15.8%			2校中50%			97校中25.8%			29校中10.3%		

※加盟がない市町村：東松島市、七ヶ宿町、丸森町、松島町、七ヶ浜町、大郷町、涌谷町、美里町、加美町、色麻町、女川町、南三陸町

3. リーダーシップ・トレーニング・センター実施状況

令和4年8月2日～4日の日程で、国立花山青少年自然の家を会場に全県中・高校生メンバーを対象として計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により安心安全な事業実施が望めないため中止になりました。

4. 青少年赤十字研究協力校による発表

令和3・4年度は、塩竈市立第二中学校が2年間の研究に取り組み、11月4日(金)に塩釜ガス体育館を会場に実践発表会を開催しました。

研究テーマは、「関わり まとめ はたす 生徒の育成 ～聴き合いを取り入れた防災学習の指導の工夫を通して～」として、防災教育を組み入れた1年生・道徳、2年生・理科、3年生は総合的な学習(ポスターセッション)の授業を公開しました。その後、市教育委員会・地区住民・各学年の代表生徒・防災主任をパネラーとして、東北大学の佐藤健教授の進行でパネルディスカッションが行われ、参加者にとって防災教育を考えるための有意義な日となりました。

協力校	塩竈市立第二中学校
指定年度	令和3・4年度
研究公開日	11月4日(金)



実践発表会の様子

5. 防災教育事業

「災害からいのちを守る日本赤十字社」の確立を目指し、「防災・減災」に注力した活動を進めています。そのひとつの取り組みとして、青少年赤十字防災教育プログラム『まもるいのち ひろめるぼうさい』を作成し、これを活用した防災教育に取り組んでいます。

また、幼稚園・保育所向け防災教材「ぼうさいまちがいさがし きけん はっけん!」を作成し、県内の加盟園・所の施設に配付し、防災教育に活用いただいております。新規加盟園・所には無償提供を継続しています。これからも広く紹介し、さまざまな活用方法を考えていきます。



青少年赤十字防災教育プログラム『まもるいのち ひろめるぼうさい』
すぐに授業で活用できるよう、指導案や教材、DVD映像集等を集録しています。
他の防災教材と一緒に活用することで、防災学習の深まりに結びつきます。



幼稚園・保育所向け防災教材『ぼうさいまちがいさがし きけん はっけん!』
防災・減災の輪が社会全体に広がるよう子どもたちにも自主的に考えてもらい、判断力を養います。今後、多様な使用例を考察していきたいと考えます。

6. JRC オンライン語り部LIVEと青少年赤十字国際交流事業

宮城県支部では、防災教育の一環として令和2年度から東日本大震災を体験した語り部による「生の声」を全国のJRC加盟校に配信し、命を守る学びの時間を提供しています。

令和4年度も配信を公益財団法人「3.11メモリアルネットワーク」(石巻市)と協働して実施しました。

また、コロナ禍における国際交流として宮城県青少年赤十字国際交流「RCY/JRC オンライン国際交流会」を3月25日(土)に実施しました。対象は、高校生の年代として、タイと宮城の双方から併せて16名のメンバーが参加し、自ら英語を話したり、通訳の力を借りて、自己紹介・東日本大震災を体験した語り部の視聴・感想発表、意見交換等を行いました。



タイとのオンライン国際交流会(語り部の視聴)

9 (会員と活動資金

日本赤十字社では、平成29年4月に社員制度を改正し、毎年2,000円以上の会費を拠出して組織の運営に参画される「会員」と、組織運営への参画まではせず赤十字事業に賛同して活動資金の協力をくださる「協力会員」を募集しています。令和4年度末現在、3,662名の個人会員の皆様と1,666の法人会員様、そして約19万人の協力会員の皆様に宮城県の赤十字活動を支えていただいております。

令和4年度の活動資金の募集実績は、新型コロナウイルス感染症流行の影響はやや落ち着き、募集目標額対比では105.6%となりましたが、対前年比は99.5%となりました。これからも、さらなる社業基盤の安定と赤十字思想の普及のため、地区・分区、奉仕団、協賛委員並びに地域の奉仕者の皆様方と連携し、赤十字会員の加入促進と併せ、特別社員^{注1)}の称号取得や有功章受章によりご支援くださる会員の勧奨にも努めてまいります。

令和4年度募集実績		実績額	構成比
一般	会費	249,912,106円	78.8%
	寄付金	25,370,244円	8.0%
	指定事業寄付金	10,000,000円	3.2%
法人	指定事業寄付金	10,000,000円	3.2%
	その他寄付金	21,585,462円	6.8%
合計		316,867,812円	-

※この表には、個人住民税控除対象海外救援金は含みません。



銀色有功章^{注2)}



金色有功章^{注2)}



社長感謝状^{注3)}



厚生労働大臣感謝状^{注4)}



紺綬褒章^{注5)}

注1) 赤十字会員で、10年以内に2万円以上ご協力いただいた方への称号です。

注2) 有功章は、ご協力累計額20万円で銀色有功章、同50万円で金色有功章となります。

注3) 社長感謝状は、金色有功章受章後、ご協力累計額50万円毎に贈呈いたします。

注4) 厚生労働大臣感謝状は、1年度内に100万円(法人は300万円)以上のご協力をいただいた方が対象です。

注5) 紺綬褒章は、1～数回で500万円(法人は1,000万円)以上のご協力をいただいた方が対象です。

令和4年度 地区(本部)・分區別社資実績一覧表

地区本部 地区・分区	社 資		内 訳			
			一 般		法 人	
	実績額	協力件数	実績額	協力件数	実績額	協力件数
仙台市	87,047,646円	47,805件	86,807,646円	47,791件	240,000円	14件
石巻市	18,761,973円	16,650件	16,167,473円	16,434件	2,594,500円	216件
塩竈市	3,675,476円	2,137件	3,371,476円	2,105件	304,000円	32件
気仙沼市	6,975,612円	2,581件	6,925,612円	2,580件	50,000円	1件
白石市	6,619,223円	5,666件	6,401,223円	5,621件	218,000円	45件
名取市	6,708,320円	996件	6,475,720円	964件	232,600円	32件
角田市	3,597,405円	134件	3,271,405円	96件	326,000円	38件
多賀城市	7,619,043円	12,089件	7,266,043円	12,049件	353,000円	40件
岩沼市	4,992,230円	4,641件	4,590,230円	4,608件	402,000円	33件
登米市	11,157,200円	16,248件	9,920,200円	16,136件	1,237,000円	112件
栗原市	10,258,350円	14,622件	9,446,350円	14,440件	812,000円	182件
東松島市	6,242,000円	98件	5,779,000円	78件	463,000円	20件
大崎市	17,206,016円	16,919件	15,858,016円	16,508件	1,348,000円	411件
富谷市	5,450,265円	2,881件	5,275,265円	2,860件	175,000円	21件
仙南地区	16,410,750円	17,892件	14,873,250円	17,805件	1,537,500円	87件
蔵王町	1,736,500円	3,221件	1,616,500円	3,200件	120,000円	21件
七ヶ宿町	581,000円	473件	506,000円	464件	75,000円	9件
大河原町	4,043,500円	1,865件	3,702,000円	1,841件	341,500円	24件
村田町	1,481,200円	2,203件	1,441,200円	2,197件	40,000円	6件
柴田町	5,428,300円	4,168件	4,533,300円	4,153件	895,000円	15件
川崎町	1,146,600円	2,301件	1,146,600円	2,301件	0円	0件
丸森町	1,993,650円	3,661件	1,927,650円	3,649件	66,000円	12件
仙台地区	18,882,940円	15,933件	18,450,160円	15,877件	432,780円	56件
亘理町	4,156,550円	900件	4,156,550円	900件	0円	0件
山元町	2,003,100円	1,109件	2,003,100円	1,109件	0円	0件
松島町	2,077,700円	4,054件	2,077,700円	4,054件	0円	0件
七ヶ浜町	2,489,000円	1,255件	2,489,000円	1,255件	0円	0件
利府町	3,754,900円	4,269件	3,669,900円	4,261件	85,000円	8件
大和町	2,679,660円	1,820件	2,529,660円	1,806件	150,000円	14件
大郷町	1,111,750円	1,985件	1,111,750円	1,985件	0円	0件
大衡村	610,280円	541件	412,500円	507件	197,780円	34件
大崎地区	10,510,373円	11,131件	10,163,373円	11,055件	347,000円	76件
色麻町	1,016,500円	659件	913,500円	647件	103,000円	12件
加美町	3,429,000円	1,657件	3,429,000円	1,657件	0円	0件
涌谷町	2,206,853円	1,865件	2,107,853円	1,838件	99,000円	27件
美里町	3,858,020円	6,950件	3,713,020円	6,913件	145,000円	37件
石巻地区	930,500円	33件	930,500円	33件	0円	0件
女川町	930,500円	33件	930,500円	33件	0円	0件
気仙沼地区	1,955,200円	3,875件	1,955,200円	3,875件	0円	0件
南三陸町	1,955,200円	3,875件	1,955,200円	3,875件	0円	0件
支部扱い	71,867,290円	3,398件	51,354,208円	2,668件	20,513,082円	730件
合 計	316,867,812円	195,729件	285,282,350円	193,583件	31,585,462円	2,146件

10 赤十字思想の普及

徐々に「ウィズ コロナ」が進むコロナ禍の中、引き続き紙面やインターネットなどの広報活動に力を入れ、奉仕団の皆様とともに赤十字思想と社旨の普及、活動資金（会費）の募集推進、赤十字事業への県民の皆様の理解促進と社業進展に努めています。

令和4年度は、「全国赤十字大会」が人数制限はあるものも3年ぶりに開催され、当支部も5年ぶりとなる支部赤十字大会を開催しました。また、ここ数年中止を余儀なくされてきた県内の各地方大会等も、十分な感染対策を実施して開催できました。

事業名	事業内容
インターネット	ホームページ：トピックス一覧等で日赤の活動をご覧いただけます。 Facebook：日赤の様々な活動を、タイムリーに情報提供しています。 ネット広告：ADMATRIX（県内法人に紐づけしたWEB広告）を実施（令和5年3～5月）
社旨普及チラシ	活動資金へのご理解とご協力をお願いするため、県内全世帯を対象に配布
広 報 紙	「日赤みやぎ」年3回発行（5・9・1月）/「赤十字NEWS」（本社発行/毎月）と併せて各所へ配布
広 告 掲 載	○タブロイド紙「BizLifeStyle」に広告を掲載し、遺贈・相続財産寄付を紹介しました。 ○法人協力促進のため、専用パンフレットを作製し、配布しています。 ○子ども用救護服・看護実習衣、活動紹介パネルを用いたPR 奉仕団の皆様のご協力を得て、地域で開催する各種イベントに際し「子ども用救護服・看護実習衣」の記念撮影や活動紹介パネル展示等によるPR活動を実施しています。

名 称	開催日	会 場	参会者数
全国赤十字大会	5/19	明治神宮会館（東京都）	600名
塩竈市赤十字奉仕団総会	7/12	マリングート塩釜（塩竈市）	51名
仙台市地区本部赤十字奉仕団大会	8/19	仙台市福祉プラザ（青葉区）	122名
日本赤十字社宮城県支部赤十字大会	10/27	東北大学百周年記念会館 川内萩ホール（青葉区）	275名
石巻市地区赤十字大会	11/8	石巻市防災センター（石巻市）	46名



当支部の活動を見える化した広報紙「日赤みやぎ」



活動資金がどのように使われているかをまとめた募集用チラシ



タブロイド紙に遺贈・相続財産寄付を紹介する広告を掲載



仙台商工会議所会誌「飛翔」への折込で情報発信

11 (令和4年度決算)

○一般会計 〈日本赤十字社宮城県支部〉

歳入歳出状況 (単位：円)

歳 入		歳 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
社 資 収 入	326,559,508	災害救護事業費	107,009,166
委託金等収入	0	社会活動費	78,646,154
補助金及び 交付金収入	16,883,696	国際活動費	11,007,152
災害義援金 預り金収入	67,150,158	指定事業 地方振興費	19,691,696
繰入金収入	190,926,713	地区分区 交付金支出	48,013,648
資産収入	1,827,500	社業振興費	42,566,461
雑収入	7,585,845	積立金支出	9,190,134
前年度繰越金	107,382,966	総務管理費	56,149,337
		資産取得及び 資産管理費	199,491,026
		本社送納金支出	44,530,171
合 計	718,316,386	合 計	616,294,945
歳入歳出差引残高 102,021,441 (翌年度繰越金)			

○医療施設特別会計 〈仙台赤十字病院〉

収益の収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
医 業 収 益	7,579,080,551	医 業 費 用	8,618,249,021
医 業 外 収 益	908,802,666	医 業 外 費 用	18,690,044
医療社会事業収益	22,643,784	医療奉仕費用	45,591,890
付帯事業収益	0	付帯事業費	0
特 別 利 益	3,370	特 別 損 失	5,428,554
		法人税法等	717,510
合 計	8,510,530,371	合 計	8,688,677,019
収入支出差引額 △178,146,648			

〈石巻赤十字病院〉

収益の収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
医 業 収 益	19,264,621,198	医 業 費 用	21,140,735,621
医 業 外 収 益	2,083,098,475	医 業 外 費 用	351,961,842
医療社会事業収益	30,750,877	医療奉仕費用	76,300,046
付帯事業収益	136,529,941	付帯事業費用	213,656,788
特 別 利 益	18,313,460	特 別 損 失	11,860,990
		法人税法等	-2,796,767
合 計	21,533,313,951	合 計	21,791,718,520
収入支出差引額 △258,404,569			

資本的収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
固 定 負 債	104,419,085	固 定 資 産	293,314,402
資産売却収入	0	借入金等償還	45,536,479
その他資本収入	234,431,796	そ の 他 負 債	0
合 計	338,850,881	合 計	338,850,881
収入支出差引額 0			

資本的収入及び支出 (単位：円)

収 入		支 出	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
固 定 負 債	1,423,995,530	固 定 資 産	2,133,500,432
資産売却収入	0	借入金等償還	512,994,000
その他資本収入	1,222,498,902	そ の 他 負 債	0
合 計	2,646,494,432	合 計	2,646,494,432
収入支出差引額 0			

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

これからも
ご協力よろしく
お願いします



日赤公式マスコットキャラクター

ハートちゃん

■宮城県の赤十字支部・施設

名 称	所在地・ホームページ	電話・FAX
日本赤十字社宮城県支部	〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 ホームページ https://www.jrc.or.jp/chapter/miyagi/ ※社屋移転に伴い、令和5年10月以降の住所及び電話・FAX番号については、弊社HPをご確認ください。	☎ 022 (271) 2251 FAX 022 (275) 3004
仙台赤十字病院	〒982-8501 仙台市太白区八木山本町2-43-3 ホームページ https://www.sendai.jrc.or.jp/	☎ 022 (243) 1111 FAX 022 (243) 1101
石巻赤十字病院	〒986-8522 石巻市蛇田字西道下71 ホームページ https://www.ishinomaki.jrc.or.jp/	☎ 0225 (21) 7220 FAX 0225 (96) 0122
石巻赤十字看護専門学校	〒986-8522 石巻市蛇田字西道下71 ホームページ https://www.ishinomaki.jrc.or.jp/school/	☎ 0225 (92) 6806 FAX 0225 (95) 5015
宮城県赤十字血液センター	〒981-3206 仙台市泉区明通2-6-1 ホームページ https://www.bs.jrc.or.jp/th/miyagi/	☎ 022 (290) 2501 FAX 022 (777) 6335
献血ルームAER20	〒980-6120 仙台市青葉区中央1-3-1 アエル20階	☎ 022 (711) 2090
杜の都献血ルームAOBA	〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-9-18 TICビル6階	☎ 022 (738) 9101
登米供給出張所	〒987-0511 登米市迫町佐沼字小金丁48-1	☎ 0220 (22) 2898



日本赤十字社 宮城県支部

Japanese Red Cross Society